

「JENESYS2.0」

2015 年度中国高校生訪日団第 3 陣 A コース

訪問日程 2015 年 10 月 12 日（月）～10 月 20 日（火）

1 プログラム概要

中国教育部が派遣した 2015 年度中国高校生訪日団第 3 陣 A コース計 123 名が、10 月 12 日から 10 月 20 日までの 8 泊 9 日の日程で来日しました（副団長＝劉志杰（リウ ジー ジエ）、雲南省楚雄第一中学（高校）校長）。
本事業は「JENESYS2.0」の一環として行われ、訪日団は、日本各地を訪問し、国際交流に関する視察を含め、さまざまな分野における日本の魅力、強みを体感したほか、学校交流や、ホームビジット等を通じて、日本の高校生や一般市民との友好交流と相互理解を深めました。

2 訪問地

東京都、神奈川県、茨城県、新潟県、長野県、北海道

3 日程

10 月 12 日（月）

成田国際空港より入国、オリエンテーション

10 月 13 日（火）

セミナー「日本の国際交流の軌跡」

第 1・2 分団：JICA 地球ひろば視察、都庁見学

第 3・4 分団：あーすぷらざ視察

歓迎会

10 月 14 日（水）

第 1 分団：筑波大学附属駒場中・高等学校訪問・交流

第 2 分団：東京大学教育学部附属中等教育学校訪問・交流

第 3 分団：茨城県立取手松陽高等学校訪問・交流

第 4 分団：茨城県立水戸第三高等学校訪問・交流

第 1・2 分団：商業施設視察

10 月 15 日（木）

江戸東京博物館見学

10 月 16 日（金）

第 1 分団：新潟県立国際情報高等学校訪問・交流

第 2 分団：長野県中野西高等学校訪問・交流

第 3 分団：市立札幌大通高等学校訪問・交流

第 4 分団：札幌市下水道科学館、モエレ沼公園見学

北海道札幌丘珠高等学校訪問・交流

10月17日（土）

国際交流団体による活動紹介、ホームビジット

第3・4分団：東海大学生との交流、商業施設視察

10月18日（日）

第1分団：シティホールプラザ アオーレ長岡見学、小国和紙すき体験、新潟県立歴史博物館見学

第2分団：地獄谷野猿公苑見学、日本土人形資料館・絵付け体験、座禅体験

第3・4分団：北海道庁旧庁舎、札幌ウインタースポーツミュージアム、大倉山ジャンプヒル、白い恋人パーク見学

ワークショップ

10月19日（月）

第1・2分団：皇居見学

大学訪問（明治大学）

歓送報告会

10月20日（火）

成田国際空港より帰国

4 写真

	
10月13日一般社団法人グローバル教育フォーラム 赤石和則理事によるセミナー(東京都)	10月13日一般社団法人グローバル教育フォーラム 赤石和則理事によるセミナー(東京都)
10月13日一般財団法人全球化教育论坛 赤石和則理事做专题讲座 (東京都)	10月13日一般財団法人全球化教育论坛 赤石和則理事做专题讲座 (東京都)
	
10月13日 JICA 地球ひろば視察 (東京都)	10月13日 あーすぷらざ視察 (神奈川県)
10月13日 JICA 地球广场考察(東京都)	10月13日 地球广场考察(神奈川県)
	
10月13日 歓迎会 中国高校生パフォーマンス (東京都)	10月14日 筑波大学附属駒場中・高等学校訪問・交流 (東京都)
10月13日 欢迎会 中国高中生表演节目 (東京都)	10月14日 筑波大学附属驹场初・高中访问・交流 (東京都)

	
10月14日東京大学教育学部附属中等教育学校訪問・交流（東京都）	10月14日茨城県立取手松陽高等学校訪問・交流（茨城県）
10月14日東京大学教育系附属中等教育学校訪問・交流（東京都）	10月14日茨城県立取手松陽高中訪問・交流（茨城県）
	
10月14日茨城県立水戸第三高等学校訪問・交流（茨城県）	10月15日江戸東京博物館見学（東京都）
10月14日茨城県立水戸第三高中訪問・交流（茨城県）	10月15日江戸東京博物館参观（東京都）
	
10月16日新潟県立国際情報高等学校訪問・交流（新潟県）	10月16日長野県中野西高等学校訪問・交流（長野県）
10月16日新潟県立国际信息高中访问・交流（新潟県）	10月16日長野県中野西高中访问・交流（長野県）

	
10月16日市立札幌大通高等学校訪問・交流(北海道)	10月16日北海道札幌丘珠高等学校訪問・交流(北海道)
10月16日札幌市立札幌大通高中訪問・交流(北海道)	10月16日北海道札幌丘珠高中訪問・交流(北海道)
	
10月17日国際交流団体紹介(新潟県)	10月17日昼食交流会(新潟県)
10月17日紹介国際交流団体活動(新潟県)	10月17日午餐交流会(新潟県)
	
10月17日ホームビジット(北海道)	10月17日夕食歓送会(長野県)
10月17日家庭訪問(北海道)	10月17日晚餐歓送会(長野県)

	
10月18日小国和紙すき体験（新潟県）	10月18日地獄谷野猿公苑見学（長野県）
10月18日体験小国和紙抄紙（新潟県）	10月18日地獄谷野猿公苑（長野県）
	
10月18日札幌ウインタースポーツミュージアム（北海道）	10月18日ワークショップ（北海道）
10月18日札幌冬季体育博物館（北海道）	10月18日分組討論会（北海道）
	
10月19日明治大学訪問（東京都）	10月19日歓送報告会（東京都）
10月19日明治大学訪問（東京都）	10月19日欢送报告会（東京都）

5 参加者の感想（抜粋）

○わずか数日間の短い滞在でしたが、私はこの間、日本が戦後築き上げた大いなる成果、かつての農業主体の産業構造から製造業・サービス業連結による産業構造への大転換、そしてそのために注がれた日本国民の努力を、この目でしっかり観察することができました。

筑波大学附属駒場高校と新潟県立国際情報高校での2日間の交流では、同世代である日本の高校生の学校生活を肌身で体験することができました。生き生きとした授業中の雰囲気、ざっくばらんなやり取り、柔軟で臨機応変な教え方・・・日本の教育について、私には新たな発見ばかりでした。もし経済的豊かさがその国の現在を担保するものだとしたら、科学技術はその国の未来を担保し得るものでしょう。そして教育とは、その国に絶え間ない発展のエネルギーをもたらすものであるはずです。帰国したら、私は身近な先生、クラスメート、その他教育に携わる多くの方々に日本の授業で得た体験や自分の思いを伝えていきたいと思っています。また、私にとって忘れられないのはホームビジットのことです。お昼のバーベキューでの初めての顔合わせ、そして海辺でのおしゃべり、午後の日差しのもと互いを知る中で、「お父さん」や「お母さん」が発する一言ひとことには私への優しさが込められ、笑顔の一つひとつからは私への愛があふれていました。私はここに日本人の大らかさと度量の広さを痛いほど感じました。こうした日本人の善良な姿を自分の周りや後輩たちに伝えていくことも、今回のプログラムの目的の一つだと思っています。

今回の訪日は間違いなく大成功でした。私はありのままの日本を見ることができ、隣国の友好に触れることができたのです。帰ったら今回見聞きしたことを正しく人々に伝えたいと思います。同時に、両国の交流が一層深まり、互いの良いところを取り入れたり、補い合ったりしていけるよう願っています。とりわけ、私たち若い世代はもっと外の世界に出掛け、たくさんのかたちを見て来るべきでしょう。何といっても未来は私たちのものなのですから。私たちの友情が明日の中日両国の協働を高らかに告げる角笛となるのですから。

○初めての日本訪問は私に多くのものをもたらしてくれました。日本に来るまで、私の日本に対するイメージといえば、科学技術が発達しているとか、中国と似たような国だろうとか、伝統的な文化風習がたくさん残っているとか、そんな認識しかありませんでした。けれど、数日間の短い訪問を経て、私の日本への理解はぐっと深まりました。

中でも、学校訪問とそこでの生徒たちとの交流は深く私の心に残るものでした。日本の生徒は、勉強の傍ら様々な学校行事や部活動に積極的に取り組んでおり、その自由闊達さや楽観性には自分も見習うべきだと感じました。

ホームビジットではまた、日本の普通の家庭の生活について知ることができました。日本のお母さんは素朴できれい好きで、そして朗らかでした。これはたぶん全ての日本人の本質でもあるのでしょうか。その優しさ、人に対する思いやり、このことも私が中国のクラスメートや友だちに伝えたいと思っていることの一つです。

日本では、あらゆる物が緻密で精巧に作られているだけでなく、それが人にやさしいという側面も持ち合わせています。例えば、初めてのオリエンテーションの時、日本の椅子には脚に小さなストッパーのようなものがついており、たくさんの椅子を並べる時に重宝しそうだと感じましたし、長岡市役所の議場では、小さな子どもを連れた親専用の傍聴席が設けられていたり、議員席の名札が伸縮し、使わない時にはしまえるようになっていた

りました。こうした人にやさしい設計は、日本人の細やかな目配りと決して無縁ではないでしょう。これも我が国がこれからもっと広めていかなければならないことだと思います。

そして日本は歴史や文化の伝承にも熱心です。進歩発展と同時に伝統を守り続けることもおろそかにしない。その姿勢に私は深く心打たれました。

○今回の日本訪問で最も心に残ったのはホームビジットのことです。午前中、私たちは絵のように美しい公園で日本のお父さん、お母さんと出会いました。お2人とも若いご夫婦でしたが、すでに3人もお子さんがいて、とても幸せそうに見えました。私ともう1人の団員を含む家族7人は木陰でバーベキューをし、お母さんはしきりに私たちの世話を焼いてくれましたし、私たちもまたお母さんを気遣ったりしました。お腹がいっぱいになると私たちは子どもたちとしばらく遊びました。と、その時、ちょっとした不注意から子どもがテーブルの縁に頭をぶつけてしまったのです。でもその子は泣きもせず、頭をちょっとさすったかと思うとまた笑顔を見せました。思うに、日本の子どもたちは小さな頃から勇敢さと自立心を教え込まれているのでしょうか。こうした意識は中国の親にはまずありません。午後、私たちは家で子どもたちと一緒にグリーティングカードを作りました。家の中はとても清潔で、その多くが畳敷きでした。お母さんは私たちを気遣い、楽な姿勢で座るよう言うてくれましたが、ご自分は正座のままでした。私はそのことにとても感服してしまいました。日本はまさに礼節の国です。女性の座り方も幼い頃から鍛えられてきたものなのでしょう。親は少しばかり子供に対し「厳しさ」があってもいいのではないかと私は思います。この「厳しさ」あってこそ子どもの力は育まれていくからです。その点、中国の親は子を溺愛し、往々にして本来直してやるべき悪い点もそのまま少しずつほったらかしにしているのです。また、日本の親は子どもの創造力を重んじ、親は手を出さずにまず子ども自身にやらせ、時折教えてあげるだけだったりします。私はこうしたやり方は中国の詰め込み式教育よりずっと良いと感じました。こんな日本の教育意識についても中国の親たちに伝えていければと思っています。

○一番印象に残っているのは10月13日参加したセミナーです。講師の先生は根気よく、丁寧にお話してくれました。先生は資料だけではなく、先生の経歴や体験もお話してくれました。

その上、先生のお話は大変ユーモアがありました。私たちは日本経済の発展の歴史や日中関係の歩みについて知ることができました。

○一番印象深いのは日本人の親切さです。私と同じ家庭に行ったクラスメートは英語があまり出来ず、日本語も分かりませんでした。訪問家庭の家族も英語があまり話せなかったもので、はじめは交流はスムーズにいきませんでした。しかし、ホストファミリーは話が通じない時にすぐ紙に言葉を書いてくださったお陰で、私達はすぐ意味が分かり、コミュニケーションを取ることが出来ました。

○中野西高等学校の生徒達は私達に丁寧な説明をして下さり、いつも助けてくれました。皆はお互いに言葉は通じませんでした。私達の意思は十分伝わり、相手の心にまで届い

たと思います。大変嬉しく思いました。同時に私は国の違いは外面的なもので皆の本質は同じだと思っています。

○今回の訪日交流の中で、私にとって、一番深い印象が残ったのはホームビジットでした。その前の交流活動を通して、日本に対してある程度に知っていましたが、深く理解はしていませんでした。日本人の家庭を訪問し、日本の風俗習慣及び日本人の客人に対しての温かいもてなしを感じました。家はとても綺麗で、居心地が大変良かったです。お互いに写真を交換し、自分の国の名所、観光スポットを紹介して、とても楽しかったです。お母さんは心を込めてお菓子を作ってくれて、見るだけでもきれいで目を喜ばせ、食べてみると、大変美味しかったです。その後、お母さんに教えてもらいながら、自分で抹茶をたてました。少し渋みがあったものの、とてもいい香りと味がしました。お別れの時になっても、少しでも長くいたく、別れたくない気持ちでいっぱいになりました。

帰国してから、周りの人にゴミの分類、回収の知識を普及し、チラシを配り、講座を開催することで環境保護の重要性をPRしたいと考えています。又、同級生、先生、保護者に日本人が温かくもてなしてくれたことを紹介します。日本国民のレベルの高さ、その行動が自制心や計画性が高いことを伝えたいと思っています。

中国と日本の友好関係が末永く続くことを願っています！

○今回の訪日交流プログラムの中で、一番深い印象が残ったのはホームビジットでした。ホームビジットの前に言葉の問題を心配していましたが、会ってみるとホームビジット先の家族の方に対し、初めて会ったと思えないほど親しみを感じ、とても話がはずみました。別れる時には、お互いに離れがたく、お互いの心の中に愛と尊敬の気持ちが生まれ、絆が結ばれました。ホストファミリーはご年配のお二人でしたが、私たちを受け入れるために、わざわざ手伝いの友人を呼んでくれました。美味しいケーキ、お寿司、お菓子や美味しいお茶を用意してくれました。お母さんは私たちに浴衣を着せて体験させてくれた上に、得意なフラダンスを披露してくれました。別れる時には、特別に用意してくれたお土産も頂き、大変感動しました。お父さんとお母さんの温かい、心のこもったもてなしを受けて、私たちは自分の家にいるような温かみを感じました。中国と日本の間にあるわだかまりが取り除かれ、両国の国民が互いに理解を深め、より仲良く、協力していければと思います。

○今回のプログラムで、日中友好のために、狭い考えをやめ、懐を深くし、偏見を捨て、一人一人の人間を理解することが大切なことだと深く理解できるようになりました。日本人との交流の中で、彼らが親しみやすく、温かく、友好的なことに深く感銘を受けました。私たちは共に長い歴史を持ち、近い文化と考えを共有しています。このような交流は、本来ある一衣帯水の隣国としての両国の関係をさらに身近なものとししました。そして、私たちは中国社会のこれまで主流だった憶測から判断するのではなく、自分の視点から新しく日本という国を認識するようになるでしょう。

帰国したら、周りの中国人に次のことを伝えたいと考えています。その国、その国の国民の全体像をたった幾つかの事例だけで主観的に判断すべきではなく、自らその国に行って、その国の空気を吸って、その国の風土、人情を体験すべきだと。そうすることによって、その国に対して客観的に公正な評価ができると思います。このような考えを中国人

に伝え、より客観的に日本国民を見るよう働きかけ、日中両国の平和を維持するために貢献したいと思います。

○最も印象的だったのは、生活の中に体现されていた細やかさとヒューマンケア、そして人々が自覚を持って規則を守っていたことです。また、日本人が学習と教育を重視し、外国の進んだ制度や科学技術に学び、それを上手に取り入れるのと同時に、伝統文化を保護し、きちんと継承していることも印象に残りました。

帰国したら、日本人は勤勉で真面目で、細部までこだわり新しいものを創造する点、親しみやすく常に他人のために考え、他人に迷惑をかけないようにしている点を伝えたいと思います。知識人として、高等学校の管理者として、地に足をつけて果敢に自身の職務に取り組んでいこうと思います。そして、国と社会のために、職責を果たし、力を尽くします。

○日本で一番印象に残った事を一文字で言い表すとしたら、それは「和」です。「和」が表しているのは、人と自然の調和、人と人の睦まじさです。各所に溢れる緑、細部にまでこだわって設計された環境施設、人々の心に深く根付いている「eco」……彼等は自然を敬う気持ちをしっかりと持っています。出会った時の会釈、長すぎる程の時候の挨拶、道を渡る時に横断者に先を譲る左折車……社会の調和に、私は敬服せずにはいられませんでした。

百聞は一見に如かず。今回の日本再訪は私の一生の中の貴重な経験になりました。帰国したら、自身の見聞きしたことを家族や友人に伝え、私の経験を皆と分かち合いたいと思います。

○一番印象に残っているのは、ホームビジット先のご夫婦の温かさです。

日本人は厳格で、融通が利かず、口数が少ないと聞いていました。でも、彼等はあんなにも自由で、親しみやすく、優しい人たちでした。交流に当たっては言葉の障害などがありましたが、一生懸命にその障害を取り除こうとしてくれました。ホームビジットの中で、私たちは老夫婦のために、皆でパフォーマンスを披露しました。ほんの簡単なものでしたが、彼等はとても褒めてくれ、プレゼントまで渡してくれました。ビジットが終わった後、彼等は会う人会う人に、私たちのことを褒めていました。あの真心に、普段滅多に涙を見せない私が、泣きました。

帰国したら、クラスメートや家族に、日本の美しさと素晴らしさ、日本人の親しみやすさと誠実さを伝えたいと思います。